

移住者からみたおおいた市の魅力

お問い合わせ魅力発信局 ☎578-7749

住みたいと思える ちょっとしたいいサイズ感

「以前は圧倒的に※Uターンの相談が多かったのですが、コロナの影響からか、若い世代から※Uターンの相談が増えました」と、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター内「おおいた暮らし相談窓口」県移住コンシェルジュの砂田光江さん。

Uターンで大分を選ぶ人は、旅行や移住関連の雑誌やメディアで情報を得ており、「大分県は温かく受け入れてくれそう」という、漠然としたイメージから移住を決定する傾向にあります。Uターンの、特に子育て世代は、家事や育児を手伝ってほしい、精神的にも体力的にも支えてほしいなど、両親やきょうだいのそばで生活したいという思いが強いです。また、首都圏で問題になっている待機児童を理由に、保育定員拡大に取り組んでいる大分市を希望する人も。保育園や放課後児童クラブの受け入れ体制を充実させるなどの子育て支援策への取り組みが評価され、「子育てしやすい街」「働きやすい街」として大分市は注目を集めています。移住でもっとも多い相談は、働く場所があるか、

- 
10位 住みたい田舎総合部門
 
- 
2位 若者世代が住みたい田舎部門
 
- 
7位 子育て世代が住みたい田舎部門
 
- 
8位 シニア世代が住みたい田舎部門
 

出典 宝島社『田舎暮らしの本』2月号
「2021年版住みたい田舎ベストランキング」
※大きな市(人口10万人以上)の4部門のランキングです。

新型コロナウイルスの感染拡大で企業のテレワーク導入が広がり、東京都は転出者が転入者を上回る「転出超過」が続いています。そんな中、大分市は「田舎暮らしの本2月号」の「住みたい田舎ベストランキング」で上位に位置し、若者世代が住みたい田舎部門で第2位を獲得するなど、年々人気が高まっています。

本市の強みや選ばれる理由は何なのか。移住者へのインタビューなどを通じて、本市の魅力を探ります。

大分いこの道

ということですが、大分市は県内の他地域に比べて企業数は圧倒的に多く、生活の基盤を作りやすい環境です。また、住宅取得の補助が他市より厚い、公共交通機関で移動ができる、子どもの学校の選択肢が多い、専門的な病院がある、防災意識が高いなども、大分市への移住人気を支えている理由になっているようです。

県庁所在地ならではの都市機能と自然との調和も大分市の魅力。豊富な山海の幸や、JR大分駅周辺をはじめ至るところで湧く温泉に歴史的情緒など、市民が「どこにも負けない」と自信をもてる魅力が首都圏へ向けて積極的にPRし続けたことで、コロナ禍のまさに今、大分市の強みが周知されたとさえ言えそうです。

「大分市は県外の人からよく『ちょっといい』といわれます。それは、市内のどこで何が起きているのかが分かったり、新しいお店ができたらすぐに行ける距離感、新しい取り組みが始まった時にすぐには動ける感じなど、街のサイズ感なのかもしれませんね」。



県移住コンシェルジュ 砂田光江さん

東京・有楽町駅前の認定NPO法人ふるさと回帰支援センターの中にある「おおいた暮らし相談窓口」の大分県専属の相談員です。「おおいたでの新しい暮らしの第一歩を踏み出してみようかなと思ったら、お気軽にご連絡ください。」

お問い合わせ暮らし相談窓口 ☎080-7731-8944

※Uターンとは？

- Uターン…生まれ育った故郷から進学や就職を期に都会へ移住した後、再び生まれ育った故郷に移住すること
- Iターン…生まれ育った故郷から進学や就職を期に故郷にはない要素を求めて、故郷とは別の地域に移住すること
- Jターン…生まれ育った故郷から進学や就職を期に都会へ移住した後、故郷にほど近い地方都市に移住すること

出典 JOIN (一般社団法人 移住・交流推進機構)のホームページ
(https://www.iju-join.jp/feature_cont/guide/003/02.html)より